

# 血液透析をうけながら生きる人の看護援助に関する研究

小田和美 小野幸子 田中克子 兼松恵子 梅津美香 北村直子 宮本千津子(大学) 小島博子 越野美保 宇山美紀 松原千代美 古田日出子 長瀬照世 岩井直子(岐北厚生病院・透析センター)

## I. 目的

透析センターのナースは、安全に透析を行えるよう管理することと同時に、自宅での自己管理がうまくいくよう支援している。透析をうけている人のなかには、自己管理がうまくいかない人も多く、透析センターのナースは、自己管理がうまくいかない人に対してどのような支援をしていくか日々模索している。

本共同研究は2年目を向かえ、本年度は透析センターの最大の課題である、自己管理がうまくいかない人への支援について、さまざまな方面から検討することにした。

## II. 共同研究の背景と取り組みの概要

### 1. A病院透析センターについて

A病院は300床あまりの地域医療の中核となる総合病院である。透析センターは20床で、夜間透析は行っていない。主に維持透析が多い。患者は62名である。医療スタッフは、ナース7名、臨床工学技師2名である。ナースの透析看護の経験は最も長くて5年である。

### 2. 共同研究の取り組みの経過

本年度は6月から12月まで、月に1回会議を開催し、自己管理がうまくいかない人への支援を検討することを大目的とし、以下の2つのテーマにどのように取り組んでいくか検討していった。会議は主に大学で行い、1回の会議で約2時間のディスカッションを行った。会議の合間にe-mailでのやり取りも行った。

検討し取り組んだ結果は、日本透析医学会学術集会ならびに院内研究報告会で報告予定である。

## III. 方法

### 1. 取り組み1:「検査ノート」の見直し

#### 1) 見直しの背景

これまで検査値などを記録するために使用していた「検査ノート」を見直すことである。これまでの検査ノートは、自己管理に活用してもらうことを期待して、血液検査の結果を記載する欄、自宅での体重などの自己管理に関する記録を記載する欄などを作成し、記述していた。しかし、自己管理にうまく活用されていないようであったため、見直すことにした。

#### 2) 方法

まず、記載内容をすべて書き出し、その目的と記述方法を検討した。また、ナースの支援の継続を狙って、説明内容を記載する欄を作成した。

新しい「検査ノート」を、自己管理がうまくいかない人9名に使用してもらい、より有効な活用方法、またより有益なノートの内容について検討する。

### 2. 取り組み2:透析療法や自己管理に関する家族の理解と協力の状況調査

#### 1) 調査の背景

透析をうける人の家族に対して、導入時期には必ず家族とともに説明をしていた。しかし、導入時期以降は家族との関わりは定期的に行っておらず、患者のことは患者を通じて家族に伝えてもらうことが主であった。そこで、患者の透析療法や自己管理に関する家族の理解や協力の現状を把握することにした。

#### 2) 方法

##### (1) 調査対象

調査時点で透析療法を行っていた62名のうち独居患者4名を除いた58名の透析患者に家族面接の依頼可否について意向を確認し、了承を得られた49名の家族に、家族面接の趣旨・倫理的配慮を記載した依頼文を郵送した。この際の家族とは、主に食事や身の回りの世話をしてくれる家族とした。調査対象は、面談の同意が得られた家族42名である。

##### (2) 分析対象

面接に了承した家族のうち、透析導入1年未満のもの5名、ならびに自己管理がうまくいっていないと看護師が判断したもの(以下自己管理困難者)7名計12名の家族について分析を行った。

##### (3) 面接方法

面接は、家族が希望した場所において、導入時教育プランで使用しているパンフレットを用いながら、あらかじめ定めた調査項目について聞き取った。面接は2名で行い、1名は主に尋ね、1名は主に記録を担当した。聞く際には、家族との話の流れを妨げないようにし、臨機応変に質問の順番を変更した。また、家族から質問されたり、援助が必要な場合には、その都度説明を行った。

調査項目は、水分管理、食事(4項目)、シャ

ント（4項目）、長期合併症、服薬管理、透析導入時教育、生活情報などについてである。これらは、透析療法を行ううえで家族に知ってほしいことを透析センターの全ナースで検討したものである。

面接時間は、60から100分であった。

#### （4）分析方法

面接で聞き取った内容を調査項目ごとに整理した。知識を問う項目については、知っているか認識しているかどうか、知識の正確さおよび内容を見た。協力状況を問う項目については、その内容を整理した。

#### （5）倫理的配慮

面接の趣旨、参加の自由、途中で取りやめることもできるし、参加しなくても不利益はないこと、個人が特定されないように処理することなどについて、説明用紙に記載し、書面で同意を得た。調査中の質問や知識の誤りは、途中や終わりに説明を行った。

### IV. 結果

#### 1. 取り組み1：「検査ノート」の見直し

「検査ノート」の見直しを図1、図2に示した。検討した結果を基本として、記入欄の大きさや、縦書き・横書きなどを患者の好みに合わせて、個別にノートを作成し試用している。また、必要に応じて、家族との連絡にも活用している。

まだ使用して数ヶ月であるので、評価は行っていないが、継続した看護援助を行うにあたり、有効であると思われる。

#### 2. 取り組み2：透析療法や自己管理に関する家族の理解と協力の状況調査

##### 1) 対象者の概要

調査対象者は、男性2名、女性10名であった。患者との続柄をみると、妻5名、嫁3名、姉1名、娘1名、夫1名、息子1名であった。年齢は、30歳代1名、40歳代4名、50歳代1名、60歳代5名、70歳代1名であった。

患者の概要は、男性9名、女性3名、平均年齢は71.8歳（48歳～84歳）であった。透析導入場所は、A病院7名、他病院5名で、平均透析歴は、導入期患者は4.2ヶ月（0～8ヶ月）、自己管理困難者は44.3ヶ月（1年3ヶ月～6年3ヶ月）であった。

##### 2) 水分管理について（表1）

基礎体重については、知らないものは10名であった。水分量については、知らないものは9名であったが、知っている3名は正しく答えていた。

水分については、「ペットボトルに用意しておく」や「熱いお茶にする」などの協力をしてしたが、「嫁の立場だから注意しにくい」、「意地悪しているように思われる」、「注意すると怒られる」と答えているものもあり、水分管理の協力の難しさを答えていた。

##### 3) 食事について（表2）

食事については11名が知っており、カリウムは8名が知っており、カリウムの処理方法やカリウム含有食品についてはほぼ正確に答えていた。リンについては正確に知っている家族はいなかった。食事時の水分については全員が知らなかった。塩分については、9名が知っているか答えていたが、正しく回答したものはいなかった。

家族は、カリウムについて「手間（処理）をかけるため料理に時間がかかる」、「本人のは別に調理している」、塩分について「薄味にしている」など協力している様子が語られたが、「別に料理を作っても患者が勝手に家族のを食べてしまう（カリウム）」など、協力が報われない様子も語られた。

##### 4) シヤントについて（表3）

シヤントの走行を知っているものは5名で、音を聞いているものは4名であった。しかし、シヤントの働きは11名が、トラブルは9名が知らないか答えていた。なかには、シヤント閉塞を起こしたことがあったり、患者から聞いて、シヤント閉塞を知っている家族もいた。

##### 5) 合併症について（表4）

透析中の合併症については10名が知らず、長期透析の合併症については12名全員が知らないか答えていた。「血圧が下がった」と患者が自宅で話すので知っている程度であったり、「自宅で透析の話をしていない」家族もあった。

##### 6) 内服薬について（表5）

内服薬については、8名が知らないか答えていたが、内服薬について知っていた4名のうち2名は正確に知っていた。薬の服用は1名が確認していたが、11名は本人に任せていた。「たくさん残っていて捨てたことがある」と回答した家族がいた。

### V. 考察

血液透析についての家族の理解と協力の状況についてみると、体重や水分については知らない家族が多かったが、食事についてはリンと塩分についてはもっている知識を活用して協力している家族もいた。これは、今回の調査対象が主に食事や身の回りの世話をしてくれる家族であった

ためと考えられた。しかし、患者が家族の協力を活用していないケースもあり、家族の時間が報われない状況も見出された。また、患者との続柄によっては、注意が意地悪ととられる場合もあり、家族が協力することの困難さも伺われた。

食事のなかでもリンや食事中的水分、シャント、合併症、内服薬については、水分と同様に、知らない家族がほとんどであった。

これらのことから、家族への教育は導入時には必ず行っているけれども、それだけでは十分ではなく、継続的に行う必要があると考えられた。

透析歴が長くなるにつれて、導入時とはキーパーソンが変わることが予測される。特に、嫁が中心的に世話をする家族となったときには、注意を意地悪ととられるなど、関係性による関わりの困難さもでてくるため、家族への継続的、意識的な関わりを行い、患者がうまく家族の協力を活用できるような看護援助も必要になってくると考えている。

## VI. 共同研究報告と討論の会での討議内容

共同研究と討論の会において、以下の意見交換が行われた。

▶ 自己管理困難者の背景についてが見えない。糖尿病性腎症や慢性腎不全などの患者では疾患や受け止め方、とらえ方による違いがある様に思う、患者本人や家族のとらえ方で攻めかたも違い迷うところがある。

導入時の指導が肝心、自己管理を左右する。

指導内容では、看護師がしていると思っけても家族には伝わらないところもある、透析看護師の経験年数も必要で影響もある。指導内容にむらがある合ってはいけない、クリニカルパスを使い病棟と透析室が連携することが出来る。ベテランから新人まで統一した、標準化したパスを作成したことでもむらがなくなった。病棟と透析室では別で使用しているが教育は連携して役割を明確にし反復学習を行い 10 日間で効率的に指導している。クリニカルパスは医師、コメディカル、看護師で作成、パスの効果はまだ明らかではない。(透析室スタッフ)

▶ 現在透析患者をショートステイで預かっているが、自己管理ノートを見て様子がわかり助かっている。(介護施設スタッフ)

▶ 痴呆や高齢者を見て家族に知識があっても出来るかどうか、何故出来ないのかなど家族や病院と連携のとり方が見えた。(介護施設ケアマネージャー)

▶ 家族面談はいい試みをしたと思う。家族のか

かわりは出来ていないが、透析が長くなればなんとなく家族に任せてしまい、行っていかなければいけないところだ。

検査説明は医師や栄養士が行い、補足で看護師が行っている、自己管理ノートは自己管理の手助けになる、しかってばかりではギブアップしてしまう、甘やかすと管理できないところが難しい。自己管理を継続してもらう、参加してもらうこと。(透析室スタッフ)

▶ 長期になったり高齢者になると家族がさじを投げる人が多い。

体重増加が多ければ透析で調整するが、体重増加は変わらず、そういう患者をどうするか悩んでいる。その場は言うがすぐ忘れてしまう、合併症や心機能について話すが家族は患者がえらくなれば気づくだろうと思う。(病棟スタッフ)

▶ 夜間透析患者は働いている若い患者が多く、検査の 2 日前から食事を抜いてくる。しかし検査データはよくなるかどうかどうしたら良いのか、若い患者の指導にも悩む。(透析室スタッフ)

▶ 発表を聞いて最初の関わり方、指導の仕方、どのような状況で何日関わったかが気になる。導入時の関わり方が透析をやっていないかといけない大切な時期、この指導でうまくいけるかの分かれ道になる。糖尿病腎症と慢性腎不全との違うパンフレットかどうかでも道は分かれる。そこをうまく分析すると役立つ研究になると思う。参考に来れると思う。患者指導で苦しんでいるスタッフはおり、先輩看護師の指導を見て、アドバイスを勉強をしている。自己管理は永遠の課題、キーパーソンの選択をどのようにとらえ、支援していくかがポイントだと思う、今後の面談に役立てたい。(透析室管理者)

▶ 家族を対象にした面接調査において、面接場面で家族が現実的に困っていることや知りたいと思っけていることを把握して、自分たちがほしいデータを収集することだけに終始するのではなく、家族が困っていることや求めている知識をその場で提供するというを同時にして、家族への支援を実践している。これは、看護の実践的研究では大変大切なことである。このような姿勢が看護には必要と考っけている。(共同研究者)

## VII. 今後の課題

今後は、家族面接の結果をどう実践に生かし、協力しあって、患者の自己管理を支援していくかを考っけていく。そして、さらに自己管理困難者の看護支援方法について検討を深めていきたい。

	/	/	/	/	/	/	/
	月	火	水	木	金	土	日
血圧 朝							
血圧 夕							
体重( )							
飲水量							
シャント音							
便回数							
尿回数・尿量							

《見直し前》

図1. 検査ノート見直し その1

基礎体重(DW)	Kg						
	目標の体重または許容範囲						
中2日(5%)の目安の体重	Kg		~			Kg	
中1日(3%)の目安の体重	Kg		~			Kg	
	/	/	/	/	/	/	/
	月	火	水	木	金	土	日
血圧 朝							
血圧 夕							
体重( )							
飲水量							
体調・メモ等							
増え分/残り	/	/	/	/	/	/	/
体調・メモ等							
増え分/残り	/	/	/	/	/	/	/
体調・メモ等							

《見直し後》

		検査データ			
		男	女	/	/
心臓	CTR(心胸比)	50%以下	55%以下		
	HANP	40pg/ml			
貧血	Ht	28%以上			
	Fe	65~157%			
	フェリチン	27.0~320.0ng/ml			
毒素電解質	BUN	80mg/dl以下			
	Cr	15mg/dl以下			
	カリウム	5.5mE/l以下			
骨代謝	カルシウム	8.5~10.5mg/dl			
	リン	6.0mg/dl以下			
	i-PTH	10~65pg/dl			
日付	聴取内容	指導内容		サイン	
/					

《見直し後》

図2. 検査ノート見直し その2

表1. 水分について

水分について	知識の認識		知識の正確さ	
基礎体重	知っている	2名	知らない	10名
水分量	知っている	3名	知らない	9名
基礎体重について答えた内容	基礎体重について詳しくは知らない・言葉だけ知っている・聞いたことはあるが意味は知らない			
水分量について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の水分量は600ml~700ml</li> <li>・量はわかっているが、用意しておく以上に飲んでいる500×3くらい</li> <li>・昼間は一人なので何とでもなる・本人に任せてある</li> <li>・ペットボトルに用意しておく・熱いお茶にする</li> <li>・のみ過ぎている時は注意する</li> <li>・嫁の立場だから注意しにくい、意地悪しているように思われる、注意すると怒られる</li> </ul>			

表2. 食事について

食事について	知識の認識		知識の正確さ
食事療法について	気を付けている 11名	知らない 1名	
カリウム	知っている 8名	知っているがやらない 3名	正しく答えた 8名
リン	知っている 3名	知らない 9名	正しく答えた 0名
食事中の水分	知っている 0名	知らない 12名	正しく答えた 0名
塩分	知っている 9名	知っているがやらない 3名	正しく答えた 0名
カリウムについて答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手間(処理)をかけるため料理に時間がかかる(が調理している)・本人のは別に調理している</li> <li>・デザートは缶詰にしたり、隠したりする</li> <li>・生野菜はだめ</li> <li>・別に料理を作っても患者が勝手に家族のを食べてしまう・聞いたこと(処理について)はあるが忘れた</li> </ul>		
リンについて答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットを見ながら気をつけている</li> <li>・リンが高いので薬を飲んで</li> <li>・卵は避けたほうがいいのでサンドウィッチの具は何か良いでしょうか</li> <li>・聞いたことはあるが忘れた</li> </ul>		
塩分について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄味にしています</li> <li>・専門のところから調味料を取り寄せています</li> <li>・聞いたことはあるが忘れた</li> </ul>		

表3. シャントについて

シャント	知識の認識		知識の正確さ
走行	知っている 5名	知らない 7名	正しく答えた 5名
音	聞いている 4名	聞いていない 8名	正しく聞いている 2名
働き	知っている 1名	知らない 11名	正しく答えた 0名
トラブル	知っている 3名	知らない 9名	正しく答えた 0名
シャント走行について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私(妻)がペンレスを貼っている</li> <li>・テープを貼っている所かな位しか分かりません</li> <li>・知りません</li> </ul>		
シャント音聴取について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夫婦で聞いています</li> <li>・血管に手を当てる(スリルの確認)だけです</li> <li>・聞いていないが気になる</li> <li>・本人が聞いているから知らない</li> <li>・はじめは聞いたことはあるが今は聴診器を見ていない</li> </ul>		
シャントの働きについて答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透析できるように太くする</li> <li>・岐大で聞いたから知っています</li> <li>・知らない ・あまり良く分からない</li> </ul>		
シャントトラブルについて答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧迫させてはいけない、時計もだめ</li> <li>・ひじをつくの気を付けている、手枕も気を付けている</li> <li>・最近では順調でよかった、以前は良く詰まった(シャント閉塞)から</li> </ul>		

表4. 合併症について

合併症について	知識の認識		知識の正確さ
透析中の合併症	知っている 2名	知らない 10名	正しく答えた 0名
長期透析の合併症	知っている 0名	知らない 12名	正しく答えた 0名
透析中合併症について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧が下がった(患者が自宅で話している)</li> <li>・気にならない ・知らない</li> <li>・自宅で透析の話をしていない</li> </ul>		

表5. 内服薬について

薬の管理について	知識の認識		知識の正確さ
服用している薬	知っている 4名	知らない 8名	正しく答えた 2名
服用できている	確認している 1名	本人に任せてある 11名	
服薬管理について答えた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧と心臓の薬しか知らない</li> <li>・薬の管理は私がしているので知っています</li> <li>・薬剤情報を見えています</li> <li>・薬の管理は本人がしています</li> <li>・服用できていない時もある</li> <li>・たくさん残っていて捨てたことがある</li> <li>・私(妻)が飲ませるのを忘れることがあります</li> </ul>		